



AGE 委員会 成田空港視察報告

1. 今回の空港視察について

去る7月5日、AGE (Aerodrome and Ground Environment) 委員8名が参加して成田国際空港の施設視察を行いましたのでご報告します。今回の視察は本年10月に同空港において予定されている IFALPA Safety Volunteer Seminar の準備を兼ねたもので、空港表面施設を中心に NAA の協力で実施しました。

同空港は1978年の開港以来の大きな問題を現在まで抱えながらの運用が続いています。2004年には新東京国際空港公団が民営化し、現在の NAA (成田国際空港株式会社) に空港運営が引き継がれ、JCAB の直接管理とは異なる管理体制で運用されているのが特徴です。

2. 成田空港の知られざる特徴

同空港は内陸の丘陵地に建設されたため、Up Down があります。B-Runway の入り口となる B,E Taxiway にはかなりの勾配がありますが、管制塔からの Blind Area はありません。空港制限区域内には貯水池が多数ありますが、これは丘陵地を切り開いたことによって発生する短時間の大量雨水流出を防ぐのが目的です。また、池は鳥類の格好の餌場になってしまうため、ICAO の鳥害対策の指針に基づいて池の上にテグス糸を張って鳥類の侵入を防いでいます。



池の上に張られたテグス

広大かつ複雑な Apron Area の管理を目的として、Ramp Control が配置されているのも特徴です。現在は旧管制塔と第2ターミナルビル屋上部の2箇所から運用しています。

特異な点として、未収用地問題に起因するいくつかの箇所が見られます。空港敷地内に立つ鉄塔と、それらの迂回のため湾曲した Taxiway、そのすぐ横まで迫る防護壁などです。空港敷地外周道路は未収用地付近の一部が狭く、交互通行となっています。その他、上空からでは分かりにくいですが 34R ALS も未収用地の都合で一部が片持ち式となっています。



片持ち支柱の ALS

現在も極力 ICAO Standard に近づけるべく誘導路などが整備されていますが、廃止となった誘導路のアスファルト撤去は空港運用とコストの点で難しいとのことでした。現状では現用、廃止誘導路がかなり複雑に入り乱れているため、誤進入防止のため通常の「×」印の他に緑色のペイントが施されています。また、B-Taxiway の一部は TWCL (航空緑) を部分的に点灯させ航空機への Guidance としています。

(次頁に続く)



B-Runway 南側の VMS

B-Runway の南側 END 部分手前には VMS (Variable Message Sign) が設置されています。USING RWY 「16L」 「34R」と滑走路番号の部分が電光掲示板で変化するようになっており、Cross Runway する航空機への注意喚起となっています。

3. 消火救難体制

広大な面積をカバーすべく空港内に消防所と2箇所の消防分所があり、その他1箇所の待機場所を合わせ計4箇所に化学消防車が配置されています。残念ながら成田空港は乱気流に起因する事故を複数回経験しており、即応能力向上のため Cross Wind が 20kt を超えると大型化学消防車が滑走路脇の側道まで前進待機する運用と



前進待機する大型化学消防車

なっています（これは日本独自の運用です）。現在の体制は消防車配置数6台、滑走路内全域への Response Time 110秒と、ICAO AD Category for Fire Fighting の CAT10（最高レベル）を満たすものですが、一層の能力向上を目指し半年に1回訓練を実施しています（大型化学消防車は最高速度約110km/h、滑走路のほぼ中央から Runway End まで2分以内に到着する能力を有します）。

成田空港以外の空港も同様ですが、現在の国内法において Pilot と消防隊員の直接無線通話は認められておらず、消防無線のほか ATC とは GND 周波数でのみ通話可能という状況であり、管制官を経由しての消火救難活動となっています。

4. 今回の視察を終えて

羽田空港の拡張と国際化が進む現在でも成田空港への乗り入れを希望する海外エアラインは引きもきらず、同空港の日本の空の玄関口としての重要性は今後も変わらず極めて高いものといえます。更なる離発着回数の増大要求、開港以来の問題など非常に厳しい状況の下、NAA 職員の方々による創意工夫によって空港機能が維持管理されていることを理解することが出来ました。

大きな問題をすぐに解決することは難しいですが、多くの海外エアラインが乗り入れ、世界中の人々が利用する同空港が、IFALPA Policy に則った、より安全で便利な空港となるためにも、直接のユーザーである我々 Pilot が意見を上げていくことが重要であると感じました。

5. IFALPA Volunteer Seminarのご案内

今秋10月29～31日の3日間、東京において IFALPA Safety Volunteer Seminar が開催されます。同 Seminar は IFALPA が主催し、主として Pilot から見た空港の安全について英語で話し合うもので、2日目には成田空港見学ツアーも企画されています。参加を希望される方は AGE 委員会 (airport@alpajapan.org) までご連絡ください。

以上